

## - クラブフォーラム in あき -

平成 19 年 10 月 7 日 ( 日 ) 13 : 00 ~ 16 : 30

安芸市営球場・安芸ドーム

去る、平成 19 年 10 月 7 日 ( 日 ) 高知県安芸市において、総合型地域スポーツクラブ育成推進事業の一環として、「クラブフォーラム in あき」を開催したところ、安芸市をはじめ、近隣市町村から約 100 名の参加があった。

このフォーラムは、総合型地域スポーツクラブの設立に向け、ギャオス内藤さんによる少年野球教室と気軽にスポーツを楽しめる健康づくり体験コーナー・キッズ広場を開催し総合型クラブを地域住民の方に知ってもらい気運を高めることを目的に実施した。

### 少年野球教室 ( 13:00 ~ 15:00 )

元ヤクルトスワローズのピッチャーとして活躍された「ギャオス内藤」こと、内藤尚行さんを特別講師としてお招きし、地域の子どもたちを対象に少年野球教室を開催した。

「皆さん！こんにちは！ギャオス内藤です！」と元気なトーク。188cm95kgの身体を前後左右に揺さぶりながらの指導スタイル。参加した地域の子どもたちやスタンドから見守る保護者や関係者から「おー！」「すごーい！」と、歓声が聞こえてくる。

「この中でプロ野球選手になりたい人？」と、まず最初は質問から。数人の子どもが手をあげると「誰でも夢をもって取り組めば、必ずそれに近づける！そのためには、強くなりたい！上手になりたい！という向上心が一番大切！」と、ギャオス内藤節が炸裂。子どもたちのまなざしが一瞬、引き締まって感じた瞬間であった。

つづいて「ベースの踏み方は？」と質問を切り出し、子ども達が思い思いにベースを踏んでいく。緊張した子どもの気持ちを解きほぐすように、ベースの踏み方をやって見せながら解説していく。タイムリーヒットから二塁打三塁打のベランメニューが流れるように展開されていく。「ナイスラン」「ハイタッチ！」「いいねー！」と、子どもたちにふりそそぐ励ましや声掛けは、子どもたちの勇気とやる気に滑車をかけていく。



ボールの持ち方や握り方、投球と送球の違いや考え方など、アシスタントの小田さんとともに、鋭い突っ込みと元気なトークにユーモアを加えながら子どもたちに語りかける。「そうだよ！それだよ！」「絶対できる！君ならできる！」と、地元少年野球の選手たちは、魔法の絨毯（じゅうたん）に乗せられたように、大きなアクションになってくる。

最後に、投手と野手に分かれ、投手はキャッチャーを座らせての投球練習、野手は少年野球の監督やコーチが協力し、声を上げる子どもたちのファインプレーに魅了したひと時であった。

### 健康づくり体験コーナー・キッズ広場（15:10～16:30）

安芸ドームに広がる子ども達の歓声。

ギャオス内藤氏の子供ごころをガッチリつかんだ「少年野球教室」に続いて、後半は、「健康づくり体験コーナー」と「キッズ広場」が開催された。開催場所となった安芸ドームは全面の窓を開けると、暑さを押し除けるようにして塩風が吹き込んでくる。眼下には太平洋が広がり、近くの学校からは体育祭と思われる応援の音が聞こえて、10月の第一日曜日ともなると至る所で体育行事が行われている。安芸ドームにも多くの参加者が集まってきた。

安芸ドームでは誰もが気軽にできるスポーツを紹介しようと、各コーナーに12種類の体験スポーツを準備した。ボール体操、太極拳、パワーヨガ、ターゲットナイン、ビームライフル、室内用ペタンクとグラウンドゴルフ、ダーツ、吹き矢、キャッチング・ザ・スティック、ドッチビー、それに囲碁ボールである。

コーナーの一角「キッズ広場」では、子供達に遊び感覚で運動する楽しさを味わってもらおうと、ターゲットナインが行われた。まずはお手本にとギャオス内藤氏が「7番お願いしまーす」と予告し見事貫通すると、目を丸くした子供達が「すごーえー」と飛び跳ねている。続いてわざと？外れると「なんでえー」とブーブー言って笑っている。そこは、元プロ野球投手の内藤氏、最後の一枚はきっちりストライクをとると「ドワー」とドームに大歓声があがり、内藤氏に飛びつく子供達と、拍手喝采で参加者の笑顔がはじけた。



ビームライフルコーナーでは、片岡アドバイザーがやわらかな表情で打ち方を指導していた。「こりゃー難しい」となげく人もいれば、10点満点を出し、周りの皆から「すごい！」と歓声があがり、今まで見せなかった誇らしげな顔を見せる参加者もあり、和気あいあいとした雰囲気にも包まれていた。



「ボール体操」コーナーからひととき元気な声が届いてきた。プロフェッショナルスピリッツでリードしているのは講師の久保先生。各コーナーの講師の指導からも、楽しんでもらおう、喜んでもらおう、という気概がありありと伝わってくる。100人は居るだろう参加者の表情からも「スポーツは気軽に楽しいものながやねえ」といった気持ちが読みとれて、「クラブフォーラム in あき」の成功を



実感した。苦虫を潰したような顔はどこにも見あたらない。具現化された気軽さと楽しさ、これはまさに総合型地域スポーツクラブの神髄であり、本領発揮だと思う。

小松アドバイザーと地方企画班長の長積氏がドッジビー大会の審判を買って出たが、やんちゃくれを通り越して、リトルギャングかお前達は！と言いたくなる子供達に長積氏は、「ルールをまもれー」、「アウト、アウト、アウトオー！」、「きちっと礼をしろー」と真顔で目玉ひんむいている。う～んこの情熱。これは総合型地域スポーツクラブを支える私たちのお手本だと納得する。さすがは長積氏。



その長積氏がイベントの最後に、「今日の体験スポーツのように、地域の誰もが気軽に、楽しくできるスポーツの輪が広がっています。ぜひ皆さん力をかしてください」と挨拶して「クラブフォーラム in あき」の全日程を終了した。

今回のフォーラムには、高知県だけでなく、四国のアドバイザーや地方企画班員がニュースポーツ用品などを持ち寄り、スポーツの楽しさを多くの人に知ってもらおうと協力していただいた。「週に1回程度気軽に行えるスポーツができるクラブがあれば参加したいか」という問いに参加者の多くが、「参加したい」という回答をいただいた。また、安芸市が総合型クラブに取り組むのであれば、自分もスタッフとして関わっていきたいという方までおり、このイベントを通して総合型地域スポーツクラブに興味・関心を持っていただけたように思われる。

今後、安芸市教育委員会と総合型設立に向けた話し合いの場を設け、来年度の育成指定クラブの申請に向け取り組んでいきたい。

(報告：四国ブロック地方企画班員 前田義朗)